

# SDGsの新聞

No.1  
Sep 7th 2018

環境技術科3年生、南陽工場、藤前干潟、空見スラッシュリサイクルセンターを訪れ、名古屋市のごみ・廃棄物処理の実態を学び、干潟の生態系に触れました。

平成三〇年7月11日  
(水) 環境技術科3年生システムコース・分析コース35名が校外学習を行いました。

まず名古屋市南陽工場を訪れました。ここは名古屋市で稼働している4つの焼



却工場の一つで名古屋市西部の可燃ごみを処理しています。工場の成り立ちと仕組みについて講義を受けた後、館内見学に出発しました。

可燃ごみの集積場から、焼却炉、焼却時に出る廃熱を利用した発電施設、排ガスから有害物質を除く排ガス処理設備を職員の方の説明を受けながら回りました。(以降『』は生徒の感想)

『工場は汚く、臭いと思っていたが、実際には臭いをなくす工程がたくさん行われていたり、環境に対する配慮が行われていたりすることを学びました。』『一気にごみを9t持ち上げられるパケットの大きさに驚いた。』などごみの多さと環境に配慮した処理の仕組みに驚きました。

続いて訪れた藤前干潟は、90年代後半にごみ処分場の検討が進む中、保存を望む市民運動の高まりがきっかけとなって保存が決



定した経緯を持ちます。

猛暑の中での干潟観察では、あまりの暑さになかなか生物と出会えませんでした。『穴から空いている穴を頼りに泥を掘り進めていくと、ヤマトシジミ、ソトオリガイ、ウミナナフシ、クロベンケイガニ等を捕まえることができました。』『天然のウナギを始めてみた!』『穴から泡が出ているところを掘っていくとどんどん穴が深くなっていった。(編集注:彼はアナジャコの巣と思われる穴を上半身が入るくらいだと思って掘り進めました。』など思い思いの場所で干潟にどっぷり浸った時間となりました。

最後に訪れた空見スラッシュリサイクルセンターは平成25年から運転を開始した施設で、下水処理の過程で出る汚泥を濃縮・脱水し、焼却の後セメント原料等に使われています。

汚泥を凝集するために用いる高分子凝集剤や排水からのリンの除去や排煙からの有毒物質を取り除くために化学薬品を用いていること等を知り、授業で学んでいる環境保全の技術を実際に見ることができました。『リサイクルの事業はお金がたくさんかかることが分かった』『汚泥の強いにおいの中での業務の大変さを感じた。』

誰かが処理をしてくれていることに感謝するとともに仕事の大切さを知った。』という声が上がりました。

本校のある名古屋市は産業の盛んな地であるとともに、藤前干潟をはじめとして、環境との共生を考え続けている都市です。環境保全の技術やそれを支える技術者の方との出会いを通して、現場の様子を実感した校外学習でした。

この活動は「第9回ユニエスコスクールESDアシストプロジェクト」の助成を受けて実施しました。

